

大阪府・2販売店の「押し紙」実態 (2007年1~6月)

《蛭ヶ池販売所》

月	搬入部数	実配部数	「押し紙」
1月	2340	699	1641
2月	2320	695	1625
3月	2320	694	1626
4月	2340	692	1648
5月	2320	693	1627
6月	2320	695	1625

《豊中販売所》

月	搬入部数	実配部数	「押し紙」
1月	1790	450	1340
2月	1780	455	1325
3月	1780	450	1330
4月	1790	442	1348
5月	1780	447	1333
6月	1780	453	1327

*毎日新聞販売店・元店主提供の資料より

表の数字をもとに、搬入部数に占める「押し紙」部数の平均割合を求めると、蛭ヶ池販売所が70・1%で、豊中販売所が74・7%になる。

さらに取引の記録を過去にさかのぼって見ると、このようなすさまじい「押し紙」の実態は、少なくとも提訴の5年前からあったことが判明した。

たとえば、2003年1月時点における蛭ヶ池販売所の「押し紙」率は、64・7%

る。その結果、日本中に「押し紙」が溢れるようになったのである。

参考までに、高屋さんが経営していた2店における具体的な「押し紙」の実態を、廃業に追い込まれる前の6カ月を例に紹介しておこう（左頁参照）。2007年1月から6月の数字で、いずれも朝刊を対象としたものだ（搬入部数とは、販売店に搬入される新聞の総数であり、実配部数とは、実際に配達される部数のこと）。